



花田和加子(ヴァイオリン)

アヨーシ・バトエルデネ(馬頭琴)

第32回奏楽堂トーク&コンサート
モンゴルの伝統楽器〈馬頭琴〉と弦楽器の夕べ



古川仁菜(ヴァイオリン)

アジア音楽祭
2011

アジアの伝統 アジアの現代

演目

- ◆ 馬頭琴独奏(伝統作品):「果てしなき草原」「蹄の音」
- ◆ 山本 雅一(日本):紫陽花 世界初演
- ◆ ヨハナン・チェンドラー(イスラエル):
弦楽四重奏曲 第2番"真夜中の儀式" 日本初演
- ◆ 小森 俊明(日本):ミニアチュール
- ◆ キー・ヨン・チョン(マレーシア):鐘の音のさざめき 日本初演
- ◆ 板本 勝百(日本):
弦楽四重奏曲 "CHANGING OF ALIGNMENTS"
- ◆ ジャンツァンノロブ・ダミディンツェレン:(モンゴル)
Four Seasons One Dream 世界初演
(演奏順未定)
- ◆ お話:松下 功

中島久美(ヴィオラ)



松本卓以
(チェロ)

2011年 7月28日 木 18:30開演 台東区立旧東京音楽学校奏楽堂
(開場18:00) 全席自由入場料:3,000円(税込)

主催:アジアの伝統/アジアの現代実行委員会 共催:台東区・社団法人日本作曲家協議会
お問合わせ・チケット前売り:社団法人日本作曲家協議会 03-6276-1177 カンフェティチケットセンター 0120-240-540

世界の文化地図は、長い歴史の中で常に変貌を繰り返し今日に至っている。西洋音楽一辺倒できた世界の音楽界に新風を巻き起こすのは、今、まさにアジアの文化であろう。この「アジアの伝統／アジアの現代」では、そんなアジアの文化の魅力と可能性を考察してきた。32回を迎える今回は、モンゴルの伝統楽器と弦楽器を特集する。馬頭琴によるモンゴルの伝統作品、日本とアジアの作曲家による弦楽器の作品、そしてモンゴルの作曲家による馬頭琴と弦楽四重奏の新作を演奏する。広大なアジアの風を感じる機会となれば幸いである。

松下 功(作曲家)

作曲家

山本 雅一 (日本)：山梨大学大学院修了。新・波の会日本歌曲コンクール優秀賞他。
ヨハナン・チェンドラー (イスラエル)：イスラエルの国内外で数多くの作品が演奏される。
小森 俊明 (日本)：東京藝術大学を経て同大学院修了。日本交響楽振興財団作曲賞等受賞。
キー・ヨン・チョン (マレーシア)：マレーシアで活躍をする作曲家。数々の受賞もある。
板本 勝百 (日本)：東京藝術大学卒。笹川賞、神奈川芸術祭合唱作曲コンクール等入賞。
ジャンツァノフ・ガミディンツェフ (モンゴル)：ウランバートル生まれ。東京藝術大学在学中。

演奏者

アヨーシ・バトエルデネ (馬頭琴)

モンゴル生まれ、4歳より父について馬頭琴を習い始め、5歳のとき初舞台。モンゴル国立音楽舞踏中学、モンゴル国立芸術大学、同大学院修士課程卒業。大学院在学中より、同大学で教鞭をとる。現在 東京・大阪・北海道を中心に演奏活動・馬頭琴の指導を行い、小中学校でのモンゴル文化普及演奏にも取り組むなど幅広く活動している。

花田和加子 (ヴァイオリン)

5歳よりヴァイオリンをはじめ、1987年イギリスへ留学。1994年オックスフォード大学卒業と同時に帰国。東京藝術大学大学院修士課程修了。古典から現代までの幅広いレパートリーで演奏活動を行う。

古川仁菜 (ヴァイオリン)

東京藝術大学音楽学部に入學、在学中にアメリカの Southern Methodist University に留学。卒業後は、アンサンブル東風、アンサンブル・インタラクティブ・トキオのメンバーとして活躍。

中島久美 (ヴィオラ)

4歳からヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を卒業。在学中より室内楽をヴィオラで専攻し、その魅力に惹かれて同大学院にて研鑽を積む。

松本卓以 (チェロ)

東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中に「福島賞」受賞。Ensemble Contemporary α、アンサンブル東風などのメンバーとして活躍。藝大フィルハーモニアチェロ奏者。